# 幼児の運動遊びに関する研究
## ― 遊び場の固定遊具の活用に関する調査から ―

小　黒　美智子

A Study on Exercise in Children's Play :
Research on the Use of Playground Play Things

by
Michiko Oguro

## I　は　じ　め　に

身体の運動を伴う遊び（運動遊び）は、心身の発育発達と深く関わり、幼児期には欠くことのできない遊びである。幼児がどのような運動遊びを行うかは、幼児をとりまく環境が大きく影響するが、固定遊具を使った遊びは、一人でも遊ぶことができることや、発育発達に必要な基本の運動を多様に展開できること、一つの遊具で大勢が同時に遊ぶ中で順番を守ったり助け合ったりして友達と関わって遊ぶことができることなど、幼児の運動機能や社会性の発達には有効な遊びであるとされている。

固定遊具は、公園、幼稚園、保育園、学校、マンションの庭、街角の広場、デパートの屋上など幼児の身近に常設されており種類も多い。幼児が目にすればまず触れてみたい、乗りたいなど遊びたい欲求を喚起する魅力的な遊具である。近年の急速な都市化は、子どもが安心して遊べる豊かな自然環境や空き地を奪い、子ども達の遊びの形態に変化をもたらしているが、自然の代替えとして園庭や公園の固定遊具は、子どもの戸外遊びの動機づけとして重要な役割を担っている。しかし最近の近隣の遊び場をみると、所狭しと各種の固定遊具が設置されてはいるが、昔のように帰宅後の子ども達で賑わい、ガキ大将を取り巻いて群れ遊んでいる様子に出会うことは少ない。固定遊具のある場所は、子どもにとって魅力ある遊び空間としては今も昔も変わらないはずであるが、子ども達のいない遊び場を見るたびに、子どもの遊び方や遊びの質が変化してきていることを認めざるを得ない。遊び場に設置されている多くの固定遊具は、必ずしも有効に活用されているとは思われないのである。

核家族、少子化の時代にあっては、近隣の遊び場で異年齢集団の中で遊ぶ経験は、子どもにとってかけがいのない宝物となるであろう。公園や路地から消えた子どもの姿を取り戻し、夢中になって遊べる戸外遊びの環境を整えることは急務であると同時に、限られた空間を有効に活用する方法（遊ばせ方）の研究は今後ますます重要になってくる。遊び場の固定遊具を見ると、設置者の子どもへの育って欲しい思いが表れているが、それを使って遊ぶ子どもの側は、好きな遊具、嫌いな遊具があり、適切な援助が無ければ発育発達に必要な遊具が敬遠され、片隅で錆び付いている実態も見逃すことはできない。

1994年度は、新潟県内の保育者がみた「園児の園庭における固定遊具の活用状況」を調査し報告[1]した。また、未報告ではあるが、新潟市内の幼稚園２園の保護者171名がみた、「幼児の公園における固定遊具の活用状況」も合わせて調査したが、遊び場を公園に限定した点など、問題を残した調査で終わってしまった。

そこで本研究においては、幼児の遊び場を公園に限定せず、家庭の管理下における固定遊具のある遊び場での幼児の活動傾向を把握することを目的に調査を行った。年長児（５才児）を被調査者としたのは、固定遊具を使って遊んだ経験が豊富であることや、遊具の好き嫌いを明確にイメージすることができ、回答が明確になるなどの理由からである。本研究により、５才児が好んで利用する遊具や嫌いな遊具を明らかにし、保育者や保護者がよりよい運動遊びの援助ができるように、基礎資料を求めるものである。

## II　方　　法

被調査者　　新潟市内の幼稚園、保育園の５才児の保護者152名を抽出し、128名より有効回答が得られた。（回収率84.21％）

調査期間　　1995年10月23日～11月6日

調査方法　　保護者に1995年８月、９月の２カ月間の幼児の遊びの様子を振り返ってもらい、家庭管理下における遊びの様子や固定遊具との関わり傾向について記入してもらった。園児を通して質問紙の配布回収を実施した。

質問紙

本調査で用いられた質問紙は、１～９の幼児の性別、活動傾向、よく利用する公園、小学校の校庭、グランド、マンションの庭、空き地など固定遊具の設置してある屋外の空間（以下「遊び場」という）の有無、遊び場の利用状況、固定遊具以外の好きな遊びなどの設問の他、11～40の固定遊具の設置状況とその遊具の好き嫌いについての設問によるものである。

幼児の活動傾向については、「非常に～する」５点、「やや～する」４点、「どちらともいえない」３点、「やや～しない」２点、「全く～しない」１点の５段階評定として、平均値は、１～５点に分布し、５点に近いほどその項目を肯定する傾向が強いことを示している。

固定遊具の有無については「ある」２点、「ない」１点、好き嫌いについては、「好き」２点、「嫌い」１点の２段階評定として、平均値は１～２点に分布し、２点に近いほどその項目を肯定する傾向が強いことを示している。

固定遊具は、ブランコ、滑り台、低鉄棒などに代表される単独の機能の遊具と、二つ以上の機能を有する総合遊具で形や機能の違う遊具が複数組み合わされているものなど種類が多い。そこで、調査に先立ち、新潟市、長岡市、新津市、豊栄市、新発田市、五泉市、横越村、黒埼町、津川町、三川村内の遊び場にある遊具を写真撮影し、概念のはっきりしている遊具以外は、

① ネット・くさり：ネットやくさりを登ったり渡ったりするもの
② トンネル・土管：くぐったり渡ったりするもの
③ 回転系遊具：くるくる回って目眩の楽しさを味わうもの
④ 遊動馬：形は馬にがぎらず乗ってゆらゆら振動するもの
⑤ アスレチック系総合遊具：大型で総合的にいろいろな遊具が組み合わされているもの

などに分類した。

ただし今回の調査では、砂場は「施設」と解釈し除外した。

分析の視点

(1) 遊び場での活動傾向の評定段階の平均値、標準偏差を算出し、前回の調査の園庭における固定遊具の設置状況と、家庭管理下における遊び場の固定遊具設置状況との比較検討、及び、遊び方の性差を明らかにした。

(2) 固定遊具を使った遊び方やと固定遊具の好感度の相関係数を求め、相関関係を明らかにした。

## III 結　　果

有効回答は128名から得られたが、性別に関しては、男児（N＝64 50.0%）女児（N＝63 49.2%）無回答（N＝1 0.8%）であり、性別に分析した項目の総数は127名であった。

### 1 遊び場と活動傾向

家庭管理下で、子どもの遊ぶ様子を保護者はどのように評価しているのであろうか。被調査者の活動傾向は表1より、「友達とよく遊ぶ」、「外でもよく遊ぶ」、「固定遊具のある遊び場では固定遊具を使って遊ぶ」、「活動的である」などの順に平均値が高く、4.0以上の肯定的な傾向を示している。「兄弟とよく遊ぶ」の項目も平均値は3.77とやや下がるが肯定的な結果であった。否定的な傾向を示した項目は、「保護者も一緒に遊びますか」2.77であった。

家庭管理下における戸外遊びの環境設定を問う質問は、表2のとおりであった。回答者の8割は近隣に公園や小学校の校庭、グランド、マンションの庭、空き地などの固定遊具のある遊び場が1カ所以上あると回答している。2カ所あると回答した者が最も多く41.4%であった。遊び場のまったくないと回答した者は僅か5.5%に過ぎなかった。

**表1 活動状況の性差**

| 変数名 | 「活動状況」 | 男児 $\bar{X}$ | N＝64 S.D. | 女児 $\bar{X}$ | N＝63 S.D. | 男女差 | 合計 $\bar{X}$ | N＝127 S.D. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Q2 | 活動的ですか | 4.16 | 0.93 | 3.92 | 0.83 | | 4.04 | 0.89 |
| Q3 | 外でよく遊びますか | 4.25 | 0.91 | 4.05 | 0.87 | | 4.15 | 0.89 |
| Q4 | 友達とよく遊びますか | 4.39 | 0.75 | 4.29 | 0.85 | | 4.34 | 0.80 |
| Q5 | 兄弟姉妹とよく遊びますか | 3.88 | 1.40 | 3.67 | 1.63 | | 3.77 | 1.51 |
| Q6 | 家で良く利用する遊び場はありますか | 3.53 | 1.18 | 3.65 | 1.12 | | 3.59 | 1.15 |
| Q7 | 保護者も一緒に遊びますか | 2.63 | 1.02 | 2.94 | 1.09 | | 2.78 | 1.06 |
| Q8 | 遊び場へどの程度遊びに行きましたか | 2.97 | 1.06 | 2.76 | 1.03 | | 2.87 | 1.05 |
| Q9 | 遊び場では固定遊具で遊びますか | 3.89 | 0.98 | 4.30 | 0.89 | * | 4.09 | 0.96 |

* $\chi^2$ $P<0.05$

**表2**

Q6 お子さんが家でよく利用する公園や学校の校庭、グラウンド、マンションの庭、空き地など屋外の遊び場（以下遊び場という）はありますか。

| N＝128 | | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 5 | 3カ所以上ある | 28 | (21.9) |
| 4 | 2カ所ある | 53 | (41.4) |
| 3 | 1カ所でいつも同じ場所 | 21 | (16.4) |
| 2 | 余りない | 19 | (14.8) |
| 1 | 全くない | 7 | ( 5.5) |

Q8 最近の2カ月間、お子さんは固定遊具のある遊びばへ、どの程度遊びに行きましたか。

| N＝128 | | 度数 | % |
|---|---|---|---|
| 5 | 週5回以上 | 12 | ( 9.4) |
| 4 | 週平均3～4回 | 19 | (14.8) |
| 3 | 週平均1～2回 | 41 | (32.0) |
| 2 | 月平均1～2回 | 49 | (38.3) |
| 1 | 全く行かない | 6 | ( 4.7) |
| | 無回答 | 1 | ( 0.8) |

では、近隣の遊び場を子どもたちはどの程度利用しているのか。調査時までの２カ月間の様子を保護者に思い出してもらい回答を得た。表２より、被調査者は「月平均１～２回」が38.3%、次いで「週平均１～２回」が32.0%と多くなっている。「週平均５回以上」とほとんど毎日のように利用している子はわずか9.4%と少なかった。また近隣の遊び場で、保護者がどの程度子どもと遊びを共有しているかをみる「保護者の方もお子さんと一緒に遊びますか」という問いの平均値は、2.77と否定的傾向を示し、遊び場では、子どもと一緒には余り遊ばない保護者が多いことがわかる。

活動傾向の平均値を性別で比較すると表１のとおりであった。「活動的か」「外でよく遊ぶか」「友達とよく遊ぶか」「兄弟とよくあそぶか」「遊び場へ行く頻度」などの平均値は、男児の方がやや女児を上回っているが、統計的に有意な差は認められなかった。女児が男児を上回ったのは、「家でよく利用する遊び場があるか」「保護者も一緒に遊ぶか」「遊び場では固定遊具を使って遊ぶか」であったが、Ｑ９以外は有意な差は認められず、Ｑ９の「遊び場では、固定遊具を使って遊ぶか」の平均値は、男児3.89、女児4.30で女児の方が男児よりよく遊ぶことが分かった。（$\chi 2 P<0.05$）

## 2　固定遊具の設置状況

園児が家庭管理下の遊び場で遊ぶ場合、どのような固定遊具が環境設定されているのかをみると、表３のとおりであった。表４には前回報告した「園庭における固定遊具の設置状況」[1]の平均値と標準偏差を、表５には未報告であるが、前回の調査と平行して新潟市内の２園の保護者全員を対象に行い171名の有効回答が得られた「公園における固定遊具の設置状況」の平均値と標準偏差を、本調査の「遊び場における固定遊具の設置状況」との比較検討の資料として示した。ただし表４、表５の回答は、１「ある」、２「ない」となっているので、数値が１に近いほど設置傾向が強いことを示しており、表３の数値とは逆になっている。

表３、４、５の固定遊具の設置について肯定的傾向、否定的傾向が強い順に並べ変えると以下の通りであった。（遊具の設問の仕方は'94年の調査と本調査では多少異なっている）

肯定的傾向の強い遊具

遊び場（本調査）：ブランコ、滑り台、シーソー、鉄棒、ジャングルジム（多面的）、雲梯

公　園（前調査）：砂場、ブランコ、滑り台、鉄棒、シーソー

園　庭（前調査）：砂場、鉄棒、ブランコ、滑り台、平均台、ジャングルジム、雲梯、太鼓橋

否定的傾向の強い遊具

遊び場（本調査）：平均台、ジャングルジム（一面的）、ネット・くさり、遊動木、登り棒、トンネル・土管、アスレチック系総合遊具、遊動馬

公　園（前調査）：シャトレーナー、回旋塔、平均台、太鼓橋、クライミングロープ、ジャングルハングリング、ブロックジャングル、その他、クライミングネット、タイヤブランコ、ターザンロープ、登り棒、遊動木、雲梯、ベンチブランコ、丸ブランコ、グローブジャングル、遊動馬、ジャングルジム

園　庭（前調査）：回旋塔、ブロックジャングル、シャトレーナー、タイヤブランコ、クライミングロープ、遊動馬、ジャングルハングリング、ターザンロープ、吊り輪、ベンチブランコ、シーソー、グローブジャングル、遊動木、クライミングネット、登り棒、丸ブランコ

**表3　遊び場における固定遊具の設置状況**

| 1「ある」 2「ない」 | N | $\bar{X}$ | S.D. | | N | $\bar{X}$ | S.D. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11) 平均台 | 123 | 1.25 | 0.43 | 27) ネット、くさり | 127 | 1.28 | 0.45 |
| 13) 滑り台 | 128 | 1.96 | 0.19 | 29) トンネル、土管 | 128 | 1.36 | 0.48 |
| 15) ブランコ | 128 | 1.94 | 0.24 | 31) 回転系遊具 | 127 | 1.45 | 0.50 |
| 17) 遊動木 | 128 | 1.29 | 0.45 | 33) 遊動馬 | 127 | 1.42 | 0.49 |
| 19) ジャングルジム(一面的) | 128 | 1.27 | 0.44 | 35) 鉄棒 | 128 | 1.78 | 0.41 |
| 21) ジャングルジム(多面的) | 128 | 1.73 | 0.45 | 37) 登り棒 | 128 | 1.32 | 0.47 |
| 23) 雲梯 | 126 | 1.52 | 0.50 | 39) アスレチック系総合遊具 | 128 | 1.41 | 0.49 |
| 25) シーソー | 128 | 1.80 | 0.40 | | | | |

**表4　園庭における固定遊具の設置状況**
**('94調査より)**

| 1「ある」 2「ない」 N=130 | 遊具の有無 $\bar{X}$ | S.D. | | 遊具の有無 $\bar{X}$ | S.D. |
|---|---|---|---|---|---|
| 14) 平均台 | 1.22 | 0.41 | 27) 雲梯 | 1.43 | 0.50 |
| 15) 滑り台 | 1.07 | 0.26 | 28) 太鼓橋 | 1.49 | 0.50 |
| 16) 鉄棒 | 1.02 | 0.15 | 29) 回旋塔 | 1.98 | 0.12 |
| 17) ブランコ | 1.05 | 0.21 | 30) つり輪 | 1.88 | 0.33 |
| 18) 丸ブランコ | 1.53 | 0.50 | 31) ターザンロープ | 1.89 | 0.31 |
| 19) タイヤブランコ | 1.94 | 0.25 | 32) クライミングロープ | 1.91 | 0.29 |
| 20) ベンチブランコ | 1.85 | 0.36 | 33) 登り棒 | 1.54 | 0.50 |
| 21) 遊動木 | 1.81 | 0.40 | 34) クライミングネット | 1.79 | 0.41 |
| 22) 遊動馬 | 1.91 | 0.29 | 35) シーソー | 1.85 | 0.36 |
| 23) ジャングルジム | 1.24 | 0.43 | 36) シャトレーナー | 1.94 | 0.24 |
| 24) グローブジャングル | 1.82 | 0.38 | 37) 砂場 | 1.02 | 0.12 |
| 25) ブロックジャングル | 1.98 | 0.15 | 38) その他 | 1.38 | 0.48 |
| 26) ジャングルハングリング | 1.90 | 0.30 | | | |

**表5　公園における固定遊具の設置状況**
**('94調査より)**

| 1「ない」 2「ある」 N=171 | 遊具の有無 $\bar{X}$ | S.D. | | 遊具の有無 $\bar{X}$ | S.D. |
|---|---|---|---|---|---|
| 14) 平均台 | 1.96 | 0.19 | 29) 雲梯 | 1.75 | 0.43 |
| 15) 滑り台 | 1.13 | 0.34 | 28) 太鼓橋 | 1.95 | 0.23 |
| 18) 鉄棒 | 1.29 | 0.45 | 29) 回旋塔 | 1.98 | 0.14 |
| 19) ブランコ | 1.09 | 0.29 | 32) つり輪 | 1.98 | 0.15 |
| 20) 丸ブランコ | 1.64 | 1.67 | 31) ターザンロープ | 1.88 | 0.33 |
| 21) タイヤブランコ | 1.89 | 0.32 | 34) クライミングロープ | 1.94 | 0.24 |
| 22) ベンチブランコ | 1.72 | 0.45 | 35) 登り棒 | 1.87 | 0.34 |
| 23) 遊動木 | 1.83 | 0.38 | 36) クライミングネット | 1.89 | 0.31 |
| 24) 遊動馬 | 1.61 | 0.49 | 37) シーソー | 1.35 | 0.48 |
| 25) ジャングルジム | 1.52 | 0.50 | 38) シャトレーナー | 1.99 | 0.11 |
| 26) グローブジャングル | 1.64 | 0.48 | 39) 砂場 | 1.06 | 0.23 |
| 27) ブロックジャングル | 1.90 | 0.30 | 40) その他 | 1.89 | 0.31 |
| 28) ジャングルハングリング | 1.93 | 0.26 | | | |

### 3　固定遊具の好き嫌い

設置遊具の好き嫌いについては、「はい」「いいえ」の２段階で回答を求め、結果は表６のとおりであった。平均値の高い順にみると、滑り台、アスレチック系総合遊具、ブランコ、ジャングルジム（多面）、トンネル・土管、遊動木、遊動馬、回転系遊具、シーソー、ジャングルジム（一面）、平均台、鉄棒、ネット・くさり、雲梯、登り棒であった。登り棒以外は、平均値が1.50以上の肯定的傾向を示しており、保護者から見て、子どもたちは設置されている固定遊具には総じて好感を示しているといえる。前回の保育者から見た園児の園庭の固定遊具の好感度ベスト５は、砂場、ブランコ、ジャングルジム、雲梯、滑り台であり[1)]、設置率が高い遊具は子どもの好感度も高くなっていた。本調査においても、滑り台、ブランコ、ジャングルジムが上位に位置し、５才児の好きな遊びとなっている。

遊具の好き嫌いについての平均値を性別に比較すると表６の通りであり、いずれの遊具も統計的な有意差は認められなかった。

**表６　固定遊具の好き嫌いの性差**

| 変数名 | 「好き嫌い」 | 男児 N=64 $\bar{X}$ | S.D. | 女児 N=63 $\bar{X}$ | S.D. | 男女差 | 合計 N=127 $\bar{X}$ | S.D. |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Q12 | 平　均　台 | 1.75 | 0.44 | 1.76 | 0.43 | | 1.75 | 0.43 |
| Q14 | 滑　り　台 | 1.94 | 0.24 | 2.00 | 0.00 | | 1.97 | 0.18 |
| Q16 | ブ ラ ン コ | 1.91 | 0.29 | 1.95 | 0.22 | | 1.93 | 0.26 |
| Q18 | 遊　動　木 | 1.82 | 0.39 | 1.86 | 0.35 | | 1.84 | 0.37 |
| Q20 | ジャングルジム（一面的） | 1.76 | 0.43 | 1.74 | 0.44 | | 1.75 | 0.44 |
| Q22 | ジャングルジム（多面的） | 1.91 | 0.30 | 1.93 | 0.25 | | 1.92 | 0.27 |
| Q24 | 雲　　梯 | 1.51 | 0.50 | 1.61 | 0.49 | | 1.56 | 0.50 |
| Q26 | シ ー ソ ー | 1.77 | 0.43 | 1.79 | 0.41 | | 1.78 | 0.42 |
| Q28 | ネット・くさり | 1.70 | 0.46 | 1.60 | 0.49 | | 1.66 | 0.49 |
| Q30 | トンネル・土管 | 1.88 | 0.33 | 1.87 | 0.34 | | 1.88 | 0.33 |
| Q32 | 回転系遊具 | 1.77 | 0.42 | 1.82 | 0.39 | | 1.80 | 0.41 |
| Q34 | 遊　動　馬 | 1.80 | 0.40 | 1.87 | 0.34 | | 1.83 | 0.37 |
| Q36 | 鉄　　棒 | 1.60 | 0.50 | 1.74 | 0.44 | | 1.67 | 0.47 |
| Q38 | 登　り　棒 | 1.51 | 0.50 | 1.40 | 0.50 | | 1.46 | 0.50 |
| Q40 | アスレチック系総合遊具 | 1.97 | 0.18 | 1.92 | 0.27 | | 1.95 | 0.23 |

＊　$\chi^2$ P<0.05
↑
男女差の有意差はなし

### 4　活動傾向の相関

活動傾向に関する項目と固定遊具の利用状況に関する項目との相関係数を表７に示した。表には統計的に５％水準以上で有意差が認められた相関関係を*P<0.05、**P<0.01、***P<0.001で示した。結果は以下のとおりであった。

① 活動的であるかは、外でよく遊ぶか（r=.69 P<0.001）、友達ともよく遊ぶか（r=.60 P<0.001）遊び場が近くにあるか（r=.18 P<0.05）などの項目とは有意な正の相関関係が認

められた。

② 外でよく遊ぶかは、活動的であるか（r=.69 P<0.001）、友達とよく遊ぶか（r=.59 P<0.001）との間に正の相関関係が認められた。

③ 友達と遊ぶかは、活動的であるか（r=.60 P<0.001)、外でよく遊ぶか（r=.59 P<0.001）と正の相関関係が認められた。

④ 遊び場が近くにあるかは、どのくらい遊び場へ行ったか（r=.39 P<0.001）、保護者も一緒によく遊ぶか（r=.27 P<0.01）、活動的であるか（r=.18 P<0.05）などの項目との間に正の相関関係が認められた。

⑤ 保護者も一緒に遊ぶかは、どのくらい遊び場へ行ったか（r=.39 P<0.001）、近くに遊び場があるか（r=.27 P<0.01）との間に正の相関関係が認められた。

⑥ 遊び場へ行く頻度は、近くに遊び場があるか（r=.39 P<0.001）、保護者も一緒に遊ぶか（r=.27 P<0.01）との間に正の相関関係が認められた。

⑦ 固定遊具のある遊び場では固定遊具を使って遊ぶかは、性別とは負の相関関係が認められ、女児ほど固定遊具を使って遊ぶ傾向があることが分かった。（r=-.22 P<0.05）

**表7 活動傾向の相関行列**

| 変数名 | | 1) 性別 | 2) 活動 | 3) 外で | 4) 友達 | 5) 兄弟 | 6) 遊び場 | 7) 保護者 | 8) 頻度 | 9) 固定遊具 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Q1 | 性 別 | 1.00 | | | | | | | | |
| Q2 | 活動的か | .13 | 1.00 | | | | | | | |
| Q3 | 外でよく遊ぶか | .11 | .69*** | 1.00 | | | | | | |
| Q4 | 友達とよく遊ぶか | .07 | .60*** | .59*** | 1.00 | | | | | |
| Q5 | 兄弟と遊ぶか | .07 | .13 | .07 | .12 | 1.00 | | | | |
| Q6 | 遊び場があるか | -.05 | .18* | .11 | .17 | .08 | 1.00 | | | |
| Q7 | 保護者と遊ぶか | -.15 | .15 | .15 | .16 | .03 | .27** | 1.00 | | |
| Q8 | 遊び場へ行く頻度 | .10 | .07 | .16 | .10 | .07 | .39*** | .27** | 1.00 | |
| Q9 | 固定遊具で遊ぶか | -.22* | .09 | .12 | .06 | .06 | .05 | .17 | .16 | 1.00 |

(*** P<0.001 ** P<0.01 * P<0.05)

## 5 活動傾向と遊具の好き嫌いの相関

活動傾向と遊具の好き嫌いの相関係数を表8に示した。

① 性別と遊具の好き嫌いとの間に相関関係が認められたのは滑り台だけで、負の相関が認められた（r=-.18 P<0.05）。すなわち、男女とも滑り台は好きな遊具であるが、女児の方が男児より滑り台を好む傾向があることが把握できた。

② 活動的な子は、鉄棒（r=.21 P<0.01）、登り棒（r=.21 P<0.01）、ジャングルジム（一面）（r=.18 P<0.05）の好き嫌いとの間に正の相関関係が認められた。

③ 外で遊ぶ子は、雲梯（r=.25 P<0.01）、鉄棒（r=.18 P<0.05）の好き嫌いとの間に正の相関関係が認められた。

④ 友達とよく遊ぶ子は、滑り台（r=.19 P<0.05）、トンネル・土管（r=.19 P<0.05）、アスレチック系総合遊具（r=.18 P<0.05）の好き嫌いとの間に正の相関関係が認められた。

⑤ 兄弟とよく遊ぶ子は、ジャングルジム（一面的）（r=-.22 P<0.05）の好き嫌いとの間に

負の相関関係が認められた。

⑥　近くに遊び場があるかは、回転系遊具（r＝.21 P<0.05）、鉄棒（r＝.22 P<0.05）の好き嫌いとの間に正の相関関係が認められた。

⑦　保護者も一緒に遊ぶかは、鉄棒の好き嫌いと正の相関関係が認められた（r＝.26 P<0.01）。

⑧　どのくらい遊び場へ行ったかは、鉄棒（r＝.29 P<0.001）、雲梯（r＝.20 P<0.05）の好き嫌いとの　間に正の相関関係が認められた。

⑨　固定遊具のある遊び場では固定遊具を使って遊ぶかは、回転系遊具（r＝.24 P<0.01）、雲梯（r＝.22 P<0.01）、ブランコ（r＝.22 P<0.01）、鉄棒（r＝.17 P<0.05）の好き嫌いとの間に正の相関関係が認められた。

**表８　活動傾向と遊具の好き嫌いの相関行列**

| 変数名 | | 10) 平均台 | 11) 滑り台 | 12) ブランコ | 13) 遊動木 | 14) JG一面 | 15) JG多面 | 16) 雲梯 | 17) シーソー |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Q１ | 性別 | -.01 | -.18 * | -.09 | -.06 | .02 | -.05 | -.10 | -.02 |
| Q２ | 活動的か | .12 | .11 | -.12 | -.08 | .18 * | .15 | .13 | -.11 |
| Q３ | 外でよく遊ぶか | .12 | .13 | -.06 | -.13 | .10 | -.02 | .25 ** | -.08 |
| Q４ | 友達とよく遊ぶか | .07 | .19 * | -.03 | -.09 | .14 | .05 | .16 | -.03 |
| Q５ | 兄弟と遊ぶか | -.11 | -.03 | .12 | -.12 | -.22 * | -.07 | .11 | .01 |
| Q６ | 遊び場があるか | -.15 | -.02 | -.10 | 0.08 | .11 | .15 | .16 | .05 |
| Q７ | 保護者と遊ぶか | .12 | .002 | -.12 | -.04 | -.01 | .05 | .01 | .13 |
| Q８ | 遊び場へ行く頻度 | -.004 | .02 | .02 | -.01 | .01 | .05 | .20 * | .09 |
| Q９ | 固定遊具で遊ぶか | .11 | .16 | .22 * | .10 | .02 | .12 | .22 ** | .17 |

| | | 18) ネット・鎖 | 19) トン・土 | 20) 回転 | 21) 遊動馬 | 22) 鉄棒 | 23) 登り棒 | 24) アスレチック |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Q１ | 性　別 | .10 | .02 | -.06 | -.09 | -.15 | .10 | .10 |
| Q２ | 活動的か | .16 | .05 | .10 | -.04 | .21 * | .21 * | .05 |
| Q３ | 外でよく遊ぶか | .12 | .06 | -.07 | -.07 | .18 * | .12 | .08 |
| Q４ | 友達とよく遊ぶか | .12 | .19 * | -.01 | .01 | .15 | .06 | .18 * |
| Q５ | 兄弟と遊ぶか | -.02 | .01 | .08 | .17 | -.10 | .04 | .05 |
| Q６ | 遊び場があるか | -.00 | -.09 | .21 * | .13 | .22 * | .08 | -.03 |
| Q７ | 保護者と遊ぶか | .001 | .01 | .12 | .03 | .26 ** | .02 | .02 |
| Q８ | 遊び場へ行く頻度 | .11 | .04 | .12 | .06 | .29 *** | .12 | .01 |
| Q９ | 固定遊具で遊ぶか | -.01 | .06 | .24 ** | .09 | .17 * | .08 | .07 |

（*** P<0.001　** P<0.01　* P<0.05）

## ６　遊具の好みの相関関係

遊具の好き嫌いの相関係数を表９に示したが、**P<0.01以上のものを相関係数の高い順に示す。

①　平均台の好き嫌いは、遊動木（r＝.30 P<0.001）、登り棒（r＝.29 P<0.001）、アスレチック系総合遊具（r＝.24 P<0.01）、ネット・くさり（r＝.23 P<0.01）の好き嫌いとの間に正の相関関係が認められた。

②　滑り台の好き嫌いは、トンネル・土管の好き嫌いと正の相関関係が認められた（r＝.22 P<0.05）。

③　ブランコの好き嫌いは、登り棒（r＝.27 P<0.01）、遊動木（r＝.26 P<0.01）、雲梯（r＝.26 P<0.01）の好き嫌いとの間に正の相関関係が認められた。

④　遊動木の好き嫌いは、シーソー（r＝.42 P<0.001）、平均台（r＝.30 P<0.001）、ブラ

**表9 活動傾向と遊具の好き嫌いの相関行列**

| 変数名 | | 10) 平均台 | 11) 滑り台 | 12) ブランコ | 13) 遊動木 | 14) JG一面 | 15) JG多面 | 16) 雲梯 | 17) シーソー |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Q12 | 平均台好きか | 1.00 | | | | | | | |
| Q14 | 滑り台 | .12 | 1.00 | | | | | | |
| Q16 | ブランコ | .17 * | .13 | 1.00 | | | | | |
| Q18 | 遊動木 | .30 *** | .05 | .26 ** | 1.00 | | | | |
| Q20 | ジャングルジム一面 | .17 | -.11 | .002 | .21 * | 1.00 | | | |
| Q22 | ジャングルジム多面 | .18 * | .11 | .15 | .23 ** | .39 *** | 1.00 | | |
| Q24 | 雲梯 | .17 | .12 | .26 ** | .06 | .33 *** | .17 | 1.00 | |
| Q26 | シーソー | .03 | .01 | .10 | .42 *** | .21 * | .26 ** | .21 * | 1.00 |
| Q28 | ネット・くさり | .23 ** | .06 | .09 | .18 * | .45 *** | .35 *** | .39 *** | .32 *** |
| Q30 | トンネル・土管 | -.02 | .22 * | .11 | .18 * | .19 * | .21 * | .20 * | .45 *** |
| Q32 | 回転系遊具 | .22 * | .05 | .18 * | .17 | .25 ** | .29 *** | .24 ** | .43 *** |
| Q34 | 遊動馬 | -.12 | .04 | .05 | .19 * | .07 | .22 * | .11 | .41 *** |
| Q36 | 鉄棒 | .13 | .06 | -.003 | .04 | .32 *** | .16 | .39 *** | .11 |
| Q38 | 登り棒 | .29 *** | .08 | .27 ** | .20 * | .40 *** | .29 *** | .55 *** | .18 * |
| Q40 | アスレチック系総合遊具 | .24 ** | .17 | .09 | .01 | .15 | .09 | .18 * | .06 |

| | | 18) ネット・鎖 | 19) トン・土 | 20) 回転 | 21) 遊動馬 | 22) 鉄棒 | 23) 登り棒 | 24) アスレチック |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| Q12 | 平均台好きか | | | | | | | |
| Q14 | 滑り台 | | | | | | | |
| Q16 | ブランコ | | | | | | | |
| Q18 | 遊動木 | | | | | | | |
| Q20 | ジャングルジム一面 | | | | | | | |
| Q22 | ジャングルジム多面 | | | | | | | |
| Q24 | 雲梯 | | | | | | | |
| Q26 | シーソー | | | | | | | |
| Q28 | ネット・くさり | 1.00 | | | | | | |
| Q30 | トンネル・土管 | .24** | 1.00 | | | | | |
| Q32 | 回転系遊具 | .15 | .09 | 1.00 | | | | |
| Q34 | 遊動馬 | .06 | .27** | .25** | 1.00 | | | |
| Q36 | 鉄棒 | .22* | -.05 | .30*** | .01 | 1.00 | | |
| Q38 | 登り棒 | .54*** | .23** | .16 | .12 | .40*** | 1.00 | |
| Q40 | アスレチック系総合遊具 | .25** | .15 | .21* | .11 | .07 | .15 | 1.00 |

(*** P<0.001 ** P<O.01 * P<0.05)

ンコ（r=.26 P<0.01）、ジャングルジム（多面的）（r=.23 P<0.01）の好き嫌いとの間に正の相関関係が認められた。

⑤ ジャングルジム（一面的）の好き嫌いは、ネット・くさり（r=.45 P<0.001）、登り棒（r=.40 P<0.001）、ジャングルジム（多面的）（r=.39 P<0.001）、雲梯（r=.33 P<0.001）、鉄棒（r=.32 P<0.001）、回転系遊具（r=.25 P<0.01）の好き嫌いとの間に正の相関関係があった。

⑥ ジャングルジム（多面的）の好き嫌いは、ジャングルジム（一面）（r=.39 P<0.001）、ネット・くさり（r=.35 P<0.001）、回転系遊具（r=.29 P<0.001）、登り棒（r=.29 P<0.001）、シーソー（r=.26 P<0.01）の好き嫌いとの間に正の相関関係があった。

⑦ 雲梯の好き嫌いは、登り棒（R=.55 P<0.001）、ネット・くさり（r=.39 P<0.001）、鉄棒（r=.39 P<0.001）、ジャングルジム（一面的）（r=.33 P<0.001）、ブランコ（r=.26 P<0.01）、回転系遊具（r=.24 P<0.01）の好き嫌いとの間に正の相関関係が認

められた。

⑧ シーソーの好き嫌いは、トンネル・土管（r＝.45 P＜0.001）、回転系遊具（r＝.43 P＜0.001）、遊動木（R＝.42 P＜0.001）、遊動馬（r＝.41 P＜0.001）、ネット・くさり（r＝.32 P＜0.001）、ジャングルジム（多面的）（R＝.26 P＜0.01）の好き嫌いとの間に正の相関関係が認められた。

⑨ ネット・くさりの好き嫌いは、登り棒（r＝.54 P＜0.001）、ジャングルジム（一面的）（r＝.45 P＜0.001）、雲梯（r＝.39 P＜0.001）、ジャングルジム（多面的）（r＝.35 P＜0.001）、シーソー（r＝.32 P＜0.001）、アスレチック系総合遊具（r＝.25 P＜0.01）、トンネル・土管（r＝.24 P＜0.01）、平均台（r＝.23 P＜0.01）の好き嫌いとの間に正の相関関係が認められた。

⑩ トンネル・土管の好き嫌いは、シーソー（r＝.45 P＜0.001）、遊動馬（r＝.27 P＜0.01）、ネット・くさり（r＝.24 P＜0.01）、登り棒（r＝.23 P＜0.01）の好き嫌いとの間に正の相関関係が認められた。

⑪ 回転系遊具の好き嫌いは、シーソー（r＝.43 P＜0.001）、鉄棒（r＝.30 P＜0.001）、ジャングルジム（多面的）（r＝.29 P＜0.001）、ジャングルジム（一面的）（r＝.25 P＜0.01）、遊動馬（r＝.25 P＜0.01）、雲梯（r＝.24 P＜0.01）の好き嫌いとの間に正の相関関係が認められた。

⑫ 遊動馬の好き嫌いは、シーソー（r＝.41 P＜0.001）、トンネル・土管（r＝.27 P＜0.01）、回転系遊具（r＝.25 P＜0.01）、ジャングルジム（多面的）（r＝.22 P＜0.01）の好き嫌いとの間に正の相関関係が認められた。

⑬ 鉄棒の好き嫌いは、登り棒（r＝.40 P＜0.001）、雲梯（r＝.39 P＜0.001）、ジャングルジム（一面的）（r＝.32 P＜0.001）、回転系遊具（r＝.30 P＜0.001）の好き嫌いとの間に正の相関関係が認められた。

⑭ 登り棒の好き嫌いは、雲梯（r＝.55 P＜0.001）、ネット・くさり（r＝.54 P＜0.001）、鉄棒（r＝.40 P＜0.001）、ジャングルジム（一面的）（r＝.40 P＜0.001）、平均台（r＝.29 P＜0.001）、ジャングルジム（多面的）（r＝.29 P＜0.001）、ブランコ（r＝.27 P＜0.01）、トンネル・土管（r＝.23 P＜0.01）の好き嫌いとの間に正の相関関係が認められた。

⑮ アスレチック系総合遊具の好き嫌いは、ネット・くさり（r＝.25 P＜0.1）、平均台（r＝.24 P＜0.01）、の好き嫌いとの間に正の相関関係が認められた。

## Ⅳ 考 察

### 1 遊び環境と活動傾向

「子ども白書」は、子どもの遊びが、情報化時代の到来とともに質的にも量的にも変化してきていることを、「時間、空間、仲間の三つの間の狭量化が、子どもたちの生活とリズムを歪めている」[2]と指摘している。公園や路地で鬼遊び、かくれんぼ、缶けり、ゴム跳びに興じる子どもの姿が消え、テレビ、マンガ、ファミコンに夢中の子どもの姿は、動くことによって発育発達する子どものからだに赤信号を点滅させているように思われる。正木らの「子どものからだ調査'95」[3]によれば、幼稚園、保育園で「最近増えている」という実感頻度の高いものに、「すぐに疲れたという」、「背中ぐにゃ」、「つまずいてよく転ぶ」、「すぐ疲れて歩けない」、「転んで手がでない」[3]などが報告されている。このような報告に触れるたびに、子どもに自然なかたちの戸外あそびや運動遊びをもっと奨励し、動きのよい子に育つよう援助していかなければならないと考

えさせられる。

まず5才児の家庭管理下における遊び環境の設定はどうなっているかを調べてみた。表2より、遊び場が全くないと回答した者は僅か5.5%、あまりないが14.9%であった。その他の約80%の者は1カ所以上の遊び場があると回答しており、子どもの遊び場は概ね整っていると考えられる。これは、大桃による新潟市の5、6才児の生活実態調査[4]からも同様な結果が得られており、新潟市においては野原や山林などの自然の遊び場は少なくなっているが、5、6才児の遊び場に公園をあげた者は77%であったと報告されている。

では、その遊び場を子ども達はどのように活用しているかをみると、驚くほど少ないことが分かる。表2より月平均1～2回が38.3%で、次いで週平均1～2回が32.0%である。週5回以上行くものは僅か9.4%であった。これらの数値から、「いまの子ども達がかっての子どものように戸外で遊ばなくなった」[5]と指摘されることは否めない現実であると認めざるを得ない。

次に、家庭管理下で5才児が「遊び場でよく遊ぶ」場合はどのような場合かを見ると、表7より遊び場が家の近くにあるかどうか（***$P<0.001$）や、保護者も一緒によく遊ぶかどうか（**$P<0.01$）との間に高い相関があることが確認された。また、安心して遊べる空間（遊び場）が家の近くに保証されている子どもは、活動的な子が多い傾向にあることがわかった（*$P<0.05$）。さらに、活動的な子は外でよく遊び（***$P<0.001$）、友達ともよく遊ぶ（***$P<0.001$）傾向であることが把握された。5才児は運動機能の発達が著しく、歩く、走る、跳ぶ、振り回旋、押す引くなど基本的な運動形態を身につける段階である。この時期に自然な形でいろいろな運動様式を経験することは重要なことである。遊具によって運動様式が異なる固定遊具は、この年代には欠かせない遊具である。最近の少子化傾向から、兄弟で遊ぶことができない子どもも多く、保護者が子どもと一緒に遊び場へ行って遊ぶことも必要になってくるものと思われる。いま学校5日制の完全実施も間近であるように報じられているが、増えた休日を利用して、保護者が一緒になって子どもを戸外に連れ出し、共に遊びに興じることができれば子どもの活動傾向に何らかの良い影響を及ぼすことになるであろう。5才児は運動能力の発達が著しく、ゲーム化された遊び、とくに走運動をともなう遊びに興味が移っていくことから、3、4才児に対する固定遊具の意義に比れば、むしろ走り回ることができる広い空間がある方が大きい意義を持つという知見[7]もあるが、動きのよい子を育てるには、神経系の発達が著しいこの時期こそ、固定遊具を使って変化に富んだ運動経験を積むことが必要なのではないかと思われる。

5才児は、遊び場で固定遊具を使って遊ばない時は、他にどのような遊びを好むか質問してみた。最も多かったのは、自転車遊び（29.2%）、次いで砂遊び（19.2%）、ボール遊び（19.2%）、ごっこ遊び（15.0%）であった。バランスよく、スピーディーに広い空間を駆け回る遊びや、他の動きに対応して動くことが要求されるような遊びに興味が向いていることがわかる。

次に、遊び場にはどのような遊具が設置されているかをみる。砂場（今調査は除外した）、ブランコ、滑り台は、平成6年度まで幼稚園設置基準において設置を義務づけられていた関係上、平均値と標準偏差からみて、表4の園庭は当然のことであるが、表3、表5の結果より家庭管理下の遊び場にもほとんどの場所に設置されていることがわかった。次いでシーソー、鉄棒、ジャングルジム（多面的）も設置の状況は肯定的であり、これら6種の遊具は幼児をとりまくあそび環境の定番の遊具ということができよう。園庭と遊び場で遊具の設置に大きな違いが目立ったのは、平均台とシーソーであった。平均台は園庭には多いが遊び場には少なく、シーソーは逆に園庭には少なく遊び場には多く設置されていることが分かった。平均台は、幼児期に発達の著しい平衡感覚を養うばかりでなく、活用方法を工夫することにより遊びに発展性があり、運動能力や社会性の発達を促すなど教育性が大きいことから、園庭に多く設置されているものと考えられる。

また学校体育の器械運動領域に発展する遊具でもあり、設置者の教育的配慮があったものとも思われる。また、シーソーは、運動は単純で上下動を主としており、高さやスピードを楽しむわけではないので、保護者の目が届かない所でも比較的安全に遊びが展開されることや、二人以上で乗って楽しむ遊具であることから、他と協力して遊ぶなど社会性が育つこと、保護者の援助があれば低年齢の子どもから小学生まで幅広い年齢層に楽しまれるなどの理由で、地域の子どもが集まる遊び場には設置し易い遊具であるものと思われる。

### 2　固定遊具の好感度

5才児の固定遊具の好き嫌いは、遊び場での設置率の高いものほど好感度が高くなっている。これは、小黒による1994年の調査[1]からも同様な傾向を把握している。どこの遊び場にもある滑り台、ブランコ、ジャングルジムなどは、一様に子どもの好感度は高い。設置率が低いアスレチック系総合遊具も好感度が高い結果が得られたが、これは、被調査者が5才児であることから、高さやスピード、組み合わせ、力試しなど変化に富んだ遊びが展開できることから発達に見合って好感度も高くなっているものと思われる。

遊具の好き嫌いは、性別による違いは認められず、男女差がないことが確認された。

次に、遊具の好き嫌いと活動傾向との関係を考察してみたい。

遊具の好き嫌いで性別と相関が認められたものは滑り台（$*P<0.05$）だけであり、女児の方が好む傾向が見られた。前述したように活動的な子は外でよく遊ぶ子でもあるが、鉄棒、登り棒、ジャングルジム、雲梯などぶら下がる、振る、登るなどの上肢を使って支持や回転の運動を行う遊具を好むこと傾向があることが把握できた。一般に手が痛い、支えられないなどの理由から敬遠されがちの遊具も、活動的な子ほど好む傾向があるようである。また、友達とよく遊ぶ子どもは滑り台、トンネル・土管、アスレチック系総合遊具など遊び方を工夫して他と関わりながら遊びを発展することができる遊具を好む傾向があるといえる。

鉄棒の好き嫌いは、活動的か、外でよく遊ぶか、近くに遊び場が多くあるか、保護者と一緒によく遊ぶか、遊び場へ行く頻度が高いか、よく固定遊具を使って遊ぶかなどほとんどの項目との間に相関関係があることが確認された。鉄棒はジャングルジムや雲梯、太鼓橋、登り棒などに類似した遊び方ができる遊具であるが、形が単純であるだけに単にぶら下がったり登ったりするだけでは何の楽しみも感じることできない遊具である。ぶら下がって自分のからだを使ってどれだけ大きく振ることができるか、鉄棒に膝をかけて猿のように回ることができるか、どんな上がり方や下り方ができるかなど、自分の体を動かして運動を起こさなければ楽しくならない。滑り台は台の上に腰を下ろしただけで下へ滑り下りる楽しさがあるが、鉄棒はそこに乗っただけではなにも運動は起きないのである。したがって鉄棒を使って遊ぶ経験が無ければ鉄棒を使って自分のからだを操ることは至難の技である。幼児の段階で鉄棒の設置してある場所でよく遊び、何回も鉄棒に触れることによってその楽しさが理解でき、鉄棒が好きになっていくことが容易に推察できる。そのうえ、保護者や保育者の適切な援助があれば、子どもの将来の運動生活によい影響をもたらすものと思われる。鉄棒嫌いの子どもを育てないためには、幼児の段階で戸外に出て遊ぶ機会を増やし、鉄棒のある場所でより多く鉄棒に触れることできるかどうかがポイントの一つであるように思われる。

次に表9より、5才児の固定遊具の好みには遊具間の相関関係があるかどうかを考察してみたい。質問には15種類の固定遊具を示してあるが、結果は体育的価値の類似した遊具間の相関が高いことが把握できた。

平均台は不安定な状態でバランスよい身体支配を要求される遊具であるが、平均台が好きな子

は、やはり身体の平衡を保ちながら運動する遊動木、ネット・くさり、登り棒などをも好む傾向にある。

また、自然の中で木登りをする遊びの代替えとして発展してきている登り棒は、全身の筋肉を使って運動を起こさなければならない遊具であるので、好きと回答した子は、身体的にかなり発達しており運動能力の高い子であると思われる。表9に明らかなように、登り棒が好きな子は平均台、ジャングルジム、雲梯、ネット・くさり、鉄棒、ブランコ、トンネル・土管、遊動木、シーソーなど多くの遊具について好きと回答する傾向があることがわかる。かっては、わんぱく小僧の代表的な遊びの一つに木登りが挙げられていたが、遊び場に自然の木が少なくなった今は、登り棒を代替えに設置している。その設置率は前述したように決して高くはない。運動効果の面から体育的価値が高いと思われる登り棒は、幼児の段階から大いに奨励したい遊具の一つに挙げることができる。

滑り台は設置率も好感度も高い遊具であるが、他の遊具の好みとの間に相関の高いものはなかった。これは滑り下りる運動が他の遊具にはない独特の運動形態であり、体育的価値は滑り台独自のものであることを示している。

ジャングルジム、雲梯、ネット・くさり、鉄棒などは、ぶら下がる、登り下り、支持、回転、くぐり抜けなど上肢で自分の体重を支えたり、上下肢を協応させて運動を起こすことが要求される遊具であるが、相互に相関が高いことがわかった。

ブランコは振動が主体の遊具であり、ゆらゆら揺れることを繰り返し楽しむことで自然に平衡感覚を養うことができる。ブランコの好きな子は登り棒、雲梯など高い所へのぼる運動や遊動木、平均台、回転系遊具などバランスやめまいを楽しむ遊具を好む傾向があることが確認された。

## V まとめ

環境を通して行う教育[8]といわれて久しいが、5才児の家庭管理下における遊び場は概ね整っていると考えられる。そして戸外でよく遊ぶ子は、活動的で、友達ともよく遊び、家の近くに遊び場のある子は、遊び場で遊ぶ頻度が高く、保護者も一緒に遊び、活動的な子が多い。また、固定遊具を使って遊ぶのは、男児より女児のほうが多い傾向にあることが把握できた。

遊び場に設置されている遊具は、ブランコ、滑り台、鉄棒、ジャングルジム（多面的）、シーソー、雲梯などが設置率が高い遊具であった。また、5才児の固定遊具の好き嫌いは、遊具の設置率の高い遊具は好感度も高い結果が得られ、幼児の段階では、その遊具を使って遊んだ経験経験の頻度が遊具の好き嫌いに影響があるように思われる。したがって幼児期には、固定遊具を使って遊ぶ場合、より速く、より高く、より強くということより、面白い、楽しいと感じて、明日もまた行って遊ぼう、明日は今度別の遊具で遊ぼう、こんなことも、あんなこともできるよなどと新しい発見の喜びを感じられる多様な運動経験があることの方が望ましい遊び方であると思われる。

固定遊具の好き嫌いと活動傾向の項目との間に相関関係の目立って多かった遊具は鉄棒であった。鉄棒嫌いの子どもに育てないためには、幼児期の遊び場での活同傾向がキーポイントになっているように思われた。

5才児の固定遊具の好みには、体育的価値の類似した遊具間に相関が高いことが明らかになった。

以上5才児の固定遊具を使った遊びについて考察を進めてきたが、大桃によれば、「5・6才児の両親が子どもの頃よく遊んだ遊びと、その子である幼児が好きな遊びを比較すると、両親のあげている遊びは、ほとんどが友達がいないと遊べないものばかりであるのに対し、現在の子どものあげている好きな遊びは、ファミコンやブロックなど友達がいなくてもできるものが少なく

ない。」[6]とされている。運動遊びも、時代を反映して変化してきており、幼稚園、保育園などでも盛んに野球、Ｊリーグ、Ｖリーグごっこなど遊びのスポーツ化の傾向が出てきているように思われるが、幼児期に必要な基本的な運動遊びが、園庭の片隅に追いやられ忘れ去られることのないように幼児教育に携わる者は常に心がけたいものである。

**〈引　用　文　献〉**


1）小黒美智子「幼児の運動遊びに関する研究」　新潟青陵女子短期大学研究報告　第25号1995年　p.91

2）日本子どもを守る会編「子ども白書　1994年版」　草土文化　1994年　p.265

3）日本子どもを守る会編「子ども白書　1995年版」　草土文化1995年　p.123

4）大桃　伸一「幼児期の発達と遊び」新潟県立女子短期大学研究紀要　第31集　1994年　p.72

5）深谷　昌志「無気力化する子どもたち」ＮＨＫブックス　1995年　p.149

6）大桃　伸一　前掲論文p.80

7）勝部　篤美　改訂「幼児体育の理論と実際」　杏林書院　1984年　p.65

8）大場　牧夫／高杉自子／森上史朗編著　「幼稚園教育要領解説」　フレーベル館　1990年p.39


**注**


この研究は、'95年度幼児教育学科保育特別研究（体育ゼミ）において取り組んだテーマの資料に基づいている。調査にあたっては、本ゼミ受講生によるところが大きく、ここに氏名を掲載することにより、学生の努力と真摯な取り組みに感謝したい。

荒木　香　　石田　里子　　大村　聖子　　奥村　文子　　恩田　麻子　　加藤真智子

神田真理子　　小林　恵美　　捧　恵子　　清水美千子　　清水和佳子　　戸井真由美